

やまたらけ

YAMADARAKE

NOVEMBER

No. 2

2003

11/22・23は

赤沢の秋祭りを見に行こう！

日蓮宗の信仰と深く結びつき、今も江戸情緒漂う町並みが残る赤沢宿。ここに住む人たちが古くから続けてきた秋祭りが、今年も11月22・23日に行われます。毎年決まって賑わわれているのが手作りの甘酒。晩秋の澄んだ空気の中、七面山を目前に温かい甘酒をいただき、そんな素朴なお祭りです。

参加者のための甘酒や食事づくり、花飾りづくりといった祭りの準備は、古くから輪番制で進められています。大当屋（おおうや）と呼ばれる7軒の家が年ごとに順番で引き受け、この手伝いをするのが小当屋（ことうや）と呼ばれる家。大当屋1軒につき5軒ほどの小当屋が決まっています。

七面山参拝客を迎え入れ、先祖は室町時代にさかのぼるという旅館・江戸屋も大当屋の1つ。何度も準備に携わってきた望月絹さん（79歳）は「7年にいっぺんだからね。前にやったときのことは忘れてしまうけど、年ごとに甘酒に使う米の量なんか記録してある帳面があるんですよ。それを見れば思い出します」と話します。仕事の合間を縫って、小当屋と協力しながら準備を進めます。

手づくりの甘酒、飲みにきちゃあ

お祭りに集まる子供も大人も楽しみにしているのが手作りの甘酒。市販されている甘酒は酒かすを使ったものが大半ですが、お祭りの甘酒は、炊いた米に米こうじをまぜて発酵させる手の込んだもの。米本来の甘味を生かした心も体も温まる飲み物です。お祭りの3日前に仕込みを開始。発酵がきちんと進むよう、当日まで毎日、当屋が甘酒の鍋をかき混ぜます。

この秋祭りは集落の氏神様である八幡さんのお祭り。22日午後6時からが宵祭り、23日午前10時からが本祭りで、23日朝には子供みこしが出て、お祭りに花を添えます。20年度の前までは当屋の家に村中の人が集まっていたのですが、今は公民館を会場にしています。

「昔はお祭りといえば子供が楽しみにしていて、是ごろやかくれんぼをして大騒ぎでしたよ。今は子供の数が減ったからねえ」と絹さん。子供が多かった時代の、にぎやかなお祭りと趣きは変わっても、秋祭りは赤沢の人にとって大切な行事です。

「昔ながらの手作りの甘酒、飲んでみたい」、そう思った方は、ぜひ秋祭りにお出かけください。「来てくれた方にはもちろん振舞いますよ」と絹さんは笑顔で話してくれました。

- スケジュール ※時間はあくまでも目安です。
- | | | |
|-----|--------|-----------------|
| 22日 | 18:00～ | 甘酒と小豆粥振る舞い（公民館） |
| | 19:00～ | 子ども向け映画上映会（"） |
| 23日 | 8:30～ | 子ども御輿（赤沢・羽衣集落内） |
| | 10:30～ | 祈禱（妙福寺） |
| | 11:30 | 会食（公民館） |

甘酒を飲みたい方は、23日10時過ぎに公民館にお越しください。

早川の秋の見どころ
赤沢宿散策ガイド

赤沢宿へようこそ

赤沢宿は、日蓮宗の総本山身延山と、やはり日蓮宗にゆかりの深い七面山との間にある宿場です。身延山と七面山に参拝に来る人達は、請という組織を作り、団体で参拝に来ました。参詣は交通が発達していなかった江戸時代から昭和の初め頃のレジャーとして流行った側面もあり、ツアー旅行の元祖と考えると分かりやすいかも知れません。

現在でも、白装束に身を包み金剛杖を手にした参拝客をしばしば見かけます。7月から9月にかけては全国から参詣客が来るので、その季節は往時往事の赤沢宿を垣間見ることができます。



12月6日(土) 赤沢宿ツアー開催します！



見学予定地／江戸屋、大阪屋、吉田屋、赤沢資料館など
日時／12月6日(土) 午前10時～午後3時ごろ
集合・解散場所／南アルプスプラザ駐車場
参加費／2500円
定員／30名(要申込、先着順、申込締切11月25日)
申込先／日本上流文化圏研究所・電話0556-45-2160
備考／昼食はこちらでご用意いたします。

赤沢宿の基礎知識

赤沢宿に残る建物のほとんどは、江戸から明治に建てられたものである。地元の若者が、赤沢青年同志会を結成し、この街並みの保存に乗り出した。その努力が実を結び平成5年に、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



石畳と身延往還

七面山と身延山を結ぶ参道として賑わった身延往還。赤沢青年同志会が首頭をとり、街並み保存と平行して、赤沢産の寒沢(かんさ)石を使った石畳を敷いた。この道を登ると、十萬部寺を抜け身延山へ行くことができる。



屋号札

赤沢集落に暮らす多くの人の姓が望月のため、それぞれを屋号で呼び合っている。近年、板マネギを模して屋号を玄関に掲げている家がある(左写真)。公民館や旅館の看板も含めると、22枚もの数になる。あなたは全てを探ることができるか！



縁側

赤沢宿の家屋は道に面してL字型に縁側が走っている。これは、大人数が腰掛けて到着後の荷ほどき、出発前の身支度、さらにそのまま客間への出入りも可能になっている。団体客(講)を一斉に受け入れるために考えられた、赤沢宿ならではの特徴である。



板マネギ

講の指名した定宿に、目印として講中札を掲げた。この札は板マネギと呼び、軒下にびっしりと並べられている。はじめは講単位だったものが、個人別に作ることが流行し、櫓板に漆文字で個人名、屋号、在所、講名を入れた豪華なものになったそう。昭和30年代の映画スター・落語家・関取などの名前がずらりと並んでおり、往時の勢いを感じることができる。

赤沢宿の●おにぎり

美味しい

最盛期は、宿泊客が3回転したといふ赤沢宿。つまり、宿にゆっくり泊まって休むというよりも、ちょっと仮眠する休憩所のような役割であった。このため旅館では、弁当としておにぎりを作ってお客さんに持たせていた。今でも江戸屋さんをはじめ各旅館の方々は、神業のような早さで美味しい三角形のおにぎりを作ることで有名。



●水舟

集落の中には、沢の水を樋で引いた水槽がいくつかあり、昭和40年頃までは共同の水場として使われていた。松の太い丸太をくりぬいて作った舟のような形のもので、段差を作った二つの槽に別れていて、上の槽が飲み水、下の槽で洗い物をしたそう。現在は3カ所に復元されており、散策の途中に美味しい水を楽しむことができる。これ以外にも、道の脇に鯉などを飼っている水溜まりがあったら、それは水場の名残である。



赤沢宿の●神様

仏様



●摩利支天(マリシテン)

来歴が定かではないが、赤沢の氏神のひとつとして祀られている。梵語のマリーチ(陽炎)の音写で、もともとはインドで信仰されていた神。陽炎を神格化したことから、見ることも捕まえることもできないので、あらゆる災難を逃れることができると考えられた。このため日本では武運(矢除け)の神様として崇拝されてきた。早川近辺では市川大門町の摩利支天、東京の人には上野のアメ横の徳大寺、登山好きには南アルプスの山名としても知られている。



●妙福寺と子安八幡



かつては真言密教のお寺として、霊山・七面山を管理していた妙福寺。ここを訪れた日朗上人の教えを聞いた住職は、赤沢宿の人々とともに日蓮宗に改宗し七面山を身延山に寄進。その功をたたえ、以来、七面山の鍵を代々妙福寺で管理することになった。赤沢の人々は、元旦になると妙福寺から住職を先頭に七面山に登り、七面大明神の初開扉(ご開帳)を行うならわしがある。

そして、なぜか妙福寺の境内にあるのが子安八幡。寺が日蓮宗に改宗したときからの祀り神で、子育てと武運などに御利益があるということで賑わったそう。

●十萬部寺と紅葉トンネル

赤沢宿から町道追分線を十萬部寺方向へ。徒歩約1時間、自動車約20分。



赤沢集落と身延山の途中にあり、日蓮上人と蓮華經の守護神妙法さまを祀る十萬部寺。「妙法蓮華經」1部8巻28品69,384字を、お上人3代で100年以上かけて10万回読経したのが由来。七面山登山の守り神として慕われている。

また、ここへ至る道の紅葉は地元の穴場。真っ赤なカエデが道を覆い塞ぎ、木漏れ日まで赤く染まる。足元では、落ち葉の絨毯が秋の日を浴びて輝く。11月中旬が見頃。ただし道が狭いので、自動車で行く場合は覚悟が必要。十萬部寺でUターン可能。



●弁天堂の滝に打たれ身を清める！

七面山の登り口・白糸の滝のとなり雄滝弁天堂はある。ここでは、なんと滝に打たれることができる。手拭いと衣は借りられるし、堂守さんが付き添ってくれるので、初心者でもOK。さっそく滝に打たれてみた取材班。不思議と「冷たい」とか「痛い」などとは感じない。頭の中は空っぽで「南無妙法蓮華經〜」と大声で繰り返してしまふ。まさに無の境地。滝から出ると、心の中が洗い流され、なんだかすっきりとした気分。近くで眺めてマイナスイオンを浴びるのも良いが、どうせなら滝に打たれて心身共に清めてみては？

赤沢宿から町道羽衣線を七面山登山口方向へ。徒歩約30分、自動車約5分。



赤沢宿のびっくり

●合力・荷背負い



足腰が弱い参拝者のために、合力(ごうりき)と呼ばれる手荷物運搬・おんぶ、駕籠などでの登山介助役が赤沢宿の担当であった。いまでもお上人さまの登山は駕籠を使い、赤沢の人も担いでいる。この駕籠は日本一値段の高い交通手段として有名。また、1976年に貨物ケーブルが通るまで、七面山への荷物は荷背負い(にしよい)と呼ばれる人が担いで登っていた。自分の体重を超える荷を担ぐのは当たり前で、女性の荷背負いが、プロパンガスのタンクをはじめ色々な荷物を自分の背丈ほども背負っている写真が赤沢資料館(大阪屋裏)にある。この資料館も一見の価値あり。大阪屋さんに一声掛けると開けてくれる。

●七人塚の伝説

元和年間(1600年代初頭)の頃、大阪屋の主人が身延からの帰り道に盗賊一味の密談を立ち聞きした。大晦日の夜に大阪屋の土蔵を破るという相談だったので主人は当日刀を手に土蔵に待ち伏せして、押し入った強盗七人を見事討ち入ったという。七人塚はこの七人を弔うために屋敷内に建てられた塚であるが、屋敷の場所が変わり今では藪に埋もれてしまっている。妙福寺と喜久屋の間の細い道を入った左手の、畑の奥の竹藪の中にある。この道はとても景色がよいので、のんびりと散策してみるといいかも。

赤沢宿の周辺見所



アマゴの産卵

撮影場所非公開

10月下旬から11月上旬にかけて、アマゴ（早川町では通称ヤマメ）やイワナが産卵の時期を迎えます。奥が雄、手前が雌のアマゴです。月夜の晩に支流の流れの緩やかな浅瀬に出かけると、寄り添う魚たちに出会えるかもしれません。

村松正文（むらまつまさふみ）山梨県甲府市在住。独学で写真を始め、山岳、植物、魚類など様々な自然を対象に撮影を続ける。早川の自然についても住民以上に精通した人物。「日本の野生植物」など図鑑への写真提供も多数。

■赤沢 PROJECT

現在24ある「あなたのやる気応援事業」のプロジェクト。そのうち3つが赤沢集落で動いています。1つは前回ご紹介した「赤沢のそば処」。残りは今回紹介する2つです。こちらからも目が離せません！

■プロも納得・本物の石臼 望月石材店の「碾臼」



近ごろ、ちょっとした石臼ブームではありますが、巷には粗悪な商品も少なくないとか。そんな現状を見かねた石屋さんが、本物の石臼を提供すべく一念発起。石屋さん自画自賛のこの石臼を、一式80,000円（送料別）で販売します。ソバ打ちをやる方はお見逃しなく！

□ご注文：望月石材店 電話0556-45-2601

■日本蜂のハチミツ 玉屋養蜂場の「山蜜」

山々を飛び回り、何種類もの花から蜜を集める日本蜂。このハチミツは「山蜜」と呼ばれ、滋養の源として昔から珍重されてきました。しかし、飼うことが難しく収量も少ないため、ほとんど市場には出回りません。この貴重な山蜜を、やまだらけ読者のために1ビン250gを破格の2,500円（消費税、送料別）にて30個ご用意しました。ご注文はお早めに！

□ご注文：玉屋養蜂場 電話 0556-45-3037

■新着 NEWS

平成16年早川町カレンダーは「はやかわのきのこ」

早川町のキノコ博士・望月賀子夫さんの撮りためたキノコの写真が、平成16年の早川町カレンダーになりました。まいたけ、くりたけ、たまごたけ、あかやまどりなどなど、なじみ深いきのこ78種類が掲載されています。一部1,000円（送料別）で販売しています。

またこれと並行して、大量の写真の中から賀子夫さんお気に入りの8枚を厳選し、きのこの絵はがきも制作しました。8枚セットで800円（送料込）。こちらもどうぞ。

□ご注文はこちら
カレンダー：早川町役場総務課広報担当
電話 0556-45-2511
絵はがき：日本上流文化園研究所
電話 0556-45-2160

※特別町民の方々には、例年通りカレンダーを一部お届けする予定です。

■NEXT やまだらけ

次号特集（1月下旬お届け） 「早川流 正月の過ごし方」

正月行事、正月飾り、正月料理など、新年を祝う早川町独特の風習に、民俗学的視点から切り込みます。

～次号以下も面白企画がめじろ押し～

No.4（3月）「芽生えの季節・春の山野草」
雪どけとともに顔を見せる、可憐な山野草を特集します。早川町の名カメラマン、深沢正晴氏と同行する山野草撮影会も企画中！

■EVENT 情報

今年は11月8日（土）に行います！ 「南アルプスの紅葉とそば祭り」

毎年恒例のそば祭り。今年も町内から8つのそば屋が出店します。それぞれ工夫を凝らした特徴のあるそばで、どれを食べるか選ぶだけで大変。結局、片っ端から食べ歩くこと必至です。紅葉もちょうど見ごろの時期、ぜひ早川町へお越しください！なお、この「やまだらけ」をご持参いただいた方には、石臼挽きコーヒーをサービスします。会場で石臼を見かけたら、声を掛けて下さい。

□日時：11月8日（土）午前10時～午後4時
場所：ヘルシー美里グラウンド・雨天決行
お問い合わせ先：早川町役場ふるさと振興課
電話 0556-45-2511

■読者の声

- 同級生の伊勢子さんが“地域おこし”に大活躍。懐かしく思います。故郷から発信される情報は何でも新鮮で心に染み入り、心象風景を豊かにします。（厚木市、〇さん）
- 健康志向、自然志向の風潮の中、何より嬉しい情報です。（中略）私も海辺に住んでいますので、山の産物をこれからも紹介していただければと思います。（浜松市、Kさん）
- 官民が一体化して地域おこしをしていくこの運動が、今後どう展開されていくのかワクワクしながら見させてもらっています。（飯沢町、Yさん）
- この他にも多くのご意見、ご感想を頂きました。またマイタケの方も、合計で166箱の注文を頂きました。こちらも、ありがとうございます。

お詫び と訂正

前号で紹介した赤沢のそば処。大変申し訳ありませんが、都合により予約のみの営業となりました。せっかくお越しいただいたのに、食べられなかった方もいたと伺っております。今後、このようなことが起こらないよう十分気をつけますのでお詫し下さい。
なお、ご予約は内藤工務店まで。電話0556-45-2163

発行元／フィールドミュージアム準備委員会
住所／山梨県南巨摩郡早川町葉袋430 〒409-2727
電話／0556-45-2160 ファクシミリ／0556-45-2268
ホームページ／http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/

山を覗けば宝の山
やまだらけ

この夏の天候不順のおかげで、早川町の山々にも異変が起きています。前回ご紹介したマイタケは、半月ほど遅れて芽を出し我々をヒヤヒヤさせました。山の天然キノコも、例年の半分ほどしかないとのこと。そしてこれから心配なのは、狩猟への影響。獣の姿が見えない、なんてことにでもなったら…。自然を大切にしないと、そのしっぺ返しを食らうのはやっぱり人間なのですね。